

英米文学科・教育研究上の目的及び3つのポリシー

教育研究上の目的

文学部英米文学科は、英語圏の文学・語学・文化に関する学識を修め、国際語としての英語の基盤の上に立った広い見識を持つ人材の養成を目的とする。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

英米文学科は、卒業に必要な単位を取得し、以下に示すような能力を備えていると認められる学生に、卒業の認定を行い、学士（英米文学）の学位を授与する。

1. 豊かな教養と専門的知識およびそれを活用する技能

- (1) 英語の文法、語彙などに関する十分な知識を習得している。
- (2) 英語をコミュニケーションの手段（読む・聞く・書く・話す）として運用する能力を有している。
- (3) 英米文学・文化に関する十分な知識を習得している。
- (4) 英語学に関する十分な知識を習得している。

2. 他者との共同による問題発見・解決能力と、それを支える思考・判断・表現力

- (1) 英米文学の作品（小説・詩・演劇など）を読み解き、その学修成果を他者に伝達できる。
- (2) 英語という言語の特質や仕組みを理解し、その学修成果を他者に伝達できる。
- (3) 英語圏文化の特質を理解し、その学修成果を他者に伝達できる。
- (4) 文献を批判的に読み、自ら発見した問題を解決するために論理的に議論できる。

3. 自律的学習者として学び続け、社会に貢献する意欲と能力、社会の担い手としての使命感

- (1) 英語圏の文学・文化および英語学の研究を通して、現代世界の諸問題への理解を深め、その解決に貢献する意思を有している。

4. 本学の建学の精神や本学の理念に対する理解

- (1) 文化および言語の多様性への深い理解を持ち、多文化社会で活躍できる。

教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

英米文学科は、卒業認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。

1. 教育内容

- (1) 英語の実用的な運用能力を高め、国際的な場面で様々な文化的背景の人々とも、主体性・協調性を持って交流することのできる国際感覚を培う。「Freshman Seminar」「Speaking/Writing/Reading English」「英語文化コミュニケーション演習」など。
- (2) 英米を中心とする英語圏の文学・文化・歴史・社会への知識を深め、その特徴と多様性の理解を目指す。英米の小説・詩・演劇・児童文学関連科目、「英米児童文学を味わう」「英文学入門」「米文学入門」「イギリス文化論」「アメリカ文化論」など。
- (3) 英語の様々な側面をより複眼的、多面的にとらえ、その成り立ちと機能をより正確に理解できるようにする。「英語学入門」「英語の音声」「英語の歴史」「言語のしくみ」「英文法論」など。
- (4) 現代社会における文学・文化の価値の展開と発展について理解することで、東洋文化と西洋文化と

の差異や民族間における文化の差異を越えた交流を行うための知見を深める。「東西文化交流論」「比較文化論演習」など。

- (5) 英語・英語圏文学・文化に関し、他者の様々な意見を参照し、それを基礎として、自分自身の意見や思考を論理的に構築する力を養う。「ゼミナール」「卒業論文」など。
- (6) 英語以外のヨーロッパ諸言語また他の地域の外国語を身に付ける。「フランス語基礎」「ドイツ語基礎」「スペイン語基礎」「中国語 1」など。
- (7) 英米文学、英語学、英語圏文化以外の人文学、また社会科学、自然科学に触れることにより、大学生として当然身に付けておかななくてはならない教養と知識および知的好奇心を養う。それと同時に、他分野と専門分野の関連性を見出すことによってさらに深い洞察力を身に付ける。「哲学 AB」「芸術学 AB」「社会学 AB」「経済学 AB」「数学 AB」「生物学 AB」など。

2. 教育方法

- (1) 初年次教育においては、少人数のゼミ形式の授業における実践を通じて、発表の仕方、発表資料の書き方、レポートの書き方、ノートの取り方、図書館活用方法など、大学での学びの基礎を身に付ける。
- (2) 2 年次において「英文学」「米文学」「英語学」を講義形式で導入し、専門科目に関する広範な知識を身に付ける。
- (3) 1, 2 年次の英米の小説・詩・演劇・児童文学関連科目では、英米文学の様々なジャンルの具体的作品に原文で触れながら、ディスカッション形式で文学作品の持つ内容、形式について学ぶ。
- (4) 3 年次には英文学、米文学、英語学、英語圏文化の分野に関する少人数制のゼミナールを、学生同士の討論また学生による発表を含むアクティブ・ラーニングを取り入れた形式で運営する。
- (5) 4 年次の卒業論文では、教員と卒論生との間の一対一指導、およびゼミ形式で、テーマの確定、資料の分析、論文執筆を進める。

3. 評価方法

- (1) ディプロマ・ポリシーで掲げられた能力の評価として、英米文学科における単位取得状況、卒業要件達成状況、卒業論文の内容などによって測定するものとする。
- (2) 短期・長期留学を奨励し、現地での語学研修結果、単位取得状況を当該学生の留学地での学修成果として評価する。
- (3) 語学検定試験の受験を奨励し、その試験結果を当該学生の総合的学修成果として考慮する。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

英米文学科は、教育研究上の目的、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）に基づき、次のような要件を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。

1. 知識・技能

- (1) 英語圏の言語、文学、文化を学ぶ上で、十分な基礎学力を身につけている。
- (2) 高校で培った基礎学力に基づき、英語力や知識、教養を深めることができる。

2. 思考力・判断力・表現力

- (1) 英語圏の言語、文学、文化が現代社会において持ちうる重要性を発見し、洞察力を深めることができる。

3. 主体的に学習に取り組む態度

(1) 英米文学科で学ぶ英語力や知識、教養を実践的に活用する意欲がある。

アドミッション・ポリシーと各入学選抜試験との関連について

入試方式	選抜方法	アドミッション・ポリシー		
		知識・技能	思考力・判断力 ・表現力	主体的に学習に 取り組む態度
		AP1	AP2	AP3
一般選抜 (大学入学共通テスト 利用入試 (前・中・後))	大学入学 共通テスト	●		
一般選抜 (全学部統一入試 (前・後))	個別学力試験 (国・英 [独自・英 語民間])	●		
一般選抜 (3教科)	個別学力試験 (国・英 [独自・英 語民間]・選択)	●		
一般選抜 (英語民間試験活用 総合評価型)	外部試験スコア (英)	●		
	事前課題論文	●	●	●
総合型選抜 (自己推薦 (併願可能型・専願型))	自己推薦書		●	●
	口頭試問	●	●	●
学校推薦型選抜 (指定校) (スポーツ)	調査書	●		●
学校推薦型選抜 (公募制)	調査書	●		●
	小論文	●	●	●
	口頭試問	●	●	●
特別選抜試験 (社会人)	個人面接	●	●	●
	小論文	●	●	●
特別選抜試験 (留学生)	個人面接	●	●	●
	小論文	●	●	●
	英語試験	●	●	●